使わないのはもったいない話

所長　佐藤　公一

うそだと思ったら食べてみてください ――――――。

俳優の役所広司さんが出演する某ラーメンのCM（最近は侍バージョン）は、いわゆるイメージ戦略というよりも、消費者に対し「本当です。食べてもらえば分かります」と直接訴えかけるスタイルで、とても印象に残ります。

どんな業界でも、メーカー側の「いいものを提供したい、たくさんの人たちに食べてほしい、使ってほしい」という熱意をもって商品開発に取り組む方々の心の内を想像すれば、「売れる」ための戦略がいろいろ考えられるとしても、最も声を大にして伝えたいのは、「本当に良いものです。うそだと思ったら･･･」という言葉なのかも知れません。

今回、SQS のことを皆さんに紹介するにあたり、私もCM の役所さんと全く同じ気持ちになっています。

1　ご紹介するのは、アンケート集計の手間を大幅に削減する方法

アンケート調査の意義や必要性は今さらいうまでもありませんが、事後処理の負担を考えると誰もが少しは躊躇します。経費をかけた立派な処理システムでもあれば話は別ですが、学校や教育委員会、公民館等において、例えば100を超えるサンプル数を対象とするような比較的規模の大きなアンケート調査を行おうとすると、設問数にもよるでしょうが、選択だけの設問構成とその集計のみとしても、どれほど「正の字」による集計作業が必要となることか･･･。

SQS（Shared Questionnaire System）は、誰でも容易に入手でき、自由に使うことのできるアンケート実施支援システムです。これを利用すると、(回収後の）アンケート用紙をスキャンして得た画像データを特別なソフトに入れてやれば、自動的かつ速やかに集計してくれます。また、自由記述内容もその部分の画像を切り取ってまとめ、順番に並べられて出てきます。

◆ このSQS を使ってアンケートを実施すると･･･
① 結果が自動集計されます。
② 自由記述部分も集約されます。
③ クロス集計可能なExcel データも書き出されます。

2　準備するもの

端的にいえば、インターネット接続可能なパソコンとスキャナ機能があるコピー機（または専用スキャナ）さえあれば、このシステムは使えるのです。簡単に早く処理ができ、特別なコストもかかりません。今どき学校等の事業所にある事務用コピー機は、ほとんどスキャナ機能がついているはずです。

◆ SQS を使うために必要なものはこれだけです。
① インターネット接続環境のPC
② 必要なソフトは全て無料で自由にダウンロード
③ コピー機（スキャナ機能があるもの）または専用スキャナ

3　SQS による処理のあらまし

アンケート用紙（調査票）の作成や処理の流れは、次のとおりです。

（1）アンケート作成ソフト「SourceEditor」でマークシート方式のアンケートをつくる。
・選択、複数回答、自由記述　全て対応可です。

↓

（2）回収後のアンケート用紙をスキャンして、画像データ（tiff 形式）にする。

↓

（3）その画像データを読み取りソフト「MarkReader」で処理して集計する。

これで、設問毎の単純集計値や割合、自由記述欄の集約リストの処理が完了します。

このシステムは、以前から県立総合教育センターが導入し普及に努めており、同センターの研修講座終了後のアンケートはこのスタイルです。また、県立学校には、学校評価用として専用スキャナが既に配備されているようです。

私も、このシステムの存在は耳にしていたものの、具体の内容や活用方法は理解しておらず、もちろん使った経験などありませんでした。周囲の話を総合すると、現段階では、小中学校等における普及は進んではいないようです。

今回、教育振興運動の全県共通課題「情報メディアとの上手な付き合い方」に取り組むにあたり、本紙前号（5 月発行 84 号）で、「実態把握が重要です！」とお伝えし、既に、児童生徒用と保護者用のアンケート調査票や、集計値を入力するだけで全国との比較グラフが自動作成される Word ファイル集計表を作成・提供（HP「まなびネットいわて」⇒ http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/ ＞トピックスに掲載）していますが、冒頭の「集計の手間」は、やはり課題でした。そこで目をつけたのがこの SQS です。

4　こんなことに活用できます

教育振興運動の取組如何に関わらず「インターネット利用に関する実態」の把握はいずれ必要でしょうし、学校評価のための保護者や児童生徒を対象とするアンケート調査は、どこの学校でも年に数回は取り組まれているはずです。

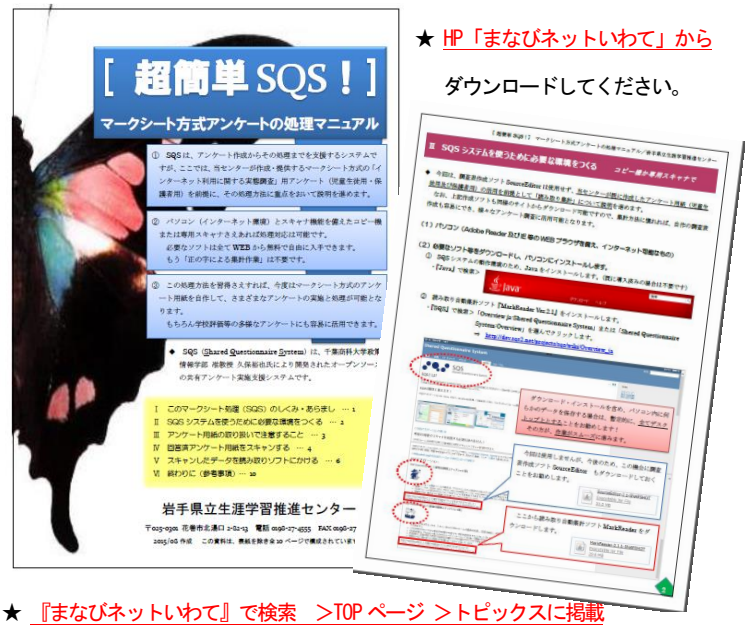
また、社会教育にあっては、各種ニーズ調査や事業（特に集会的な事業）実施後のアンケートがあります。当事者のアンケートの実施頻度により必要感は異なるでしょうが、SQS は、これら全てに活用可能なのです。

5　簡単マニュアルをつくりました

このほど、パソコンの知識や技能が「フツー」程度の人なら誰でも分かりできる、SQS によるアンケート処理のコンパクトなマニュアル（正味 10P）を作成しました。

新しい手法を取り入れることは、確かに多少の負担が伴うものです。そこで、なるべくスムーズに取り組んでいただける手順を検討した結果、「まず、既成のアンケート用紙を活用して『集計方法』に慣れることが重要。そうすれば、アンケートの自作にも容易に進めるはず…」と考え、前述「3 SQS による処理のあらまし」（1）の手順を飛ばし、当センターが提供するアンケート用紙の活用を前提として説明を進めるスタイルのマニュアルにしました。

① まず、当センター提供の「インターネット利用に関する実態調査」を実施し、結果を得るとともに SQS に慣れる。
② 集計方法に慣れたうえで、スムーズにアンケート調査票の自作にステップアップする。



★ HP「まなびネットいわて」から ダウンロードしてください。

★ 『まなびネットいわて』で検索　＞TOP ページ ＞トピックスに掲載

＊ システムのあらましや環境づくり、処理の手順を分かりやすくまとめました。

＊ 巻末に、県立総合教育センターが作成した詳細のマニュアルをはじめ、他県の教育委員会等が作成した同様の優れたマニュアル等も紹介しています。

6　とりあえず、一度ご覧ください

大げさな話ではなく、SQS を活用すれば、アンケート実施に伴う躊躇はかなりなくなると思います。もちろん活用については、実施頻度や規模を考えられたうえでのそれぞれのご判断ですが、単純集計については、明らかに大きな負担軽減となります。スキャンは、コピー作業と同じ感覚（作業量）ですし、アンケート用紙の画像データを読み取りソフトで処理するのに要する時間もごくわずかです。それだけで単純集計値が自動的に出てきますし、同時に Excel データも書き出されるので、クロス集計による分析も可能となります。私は、実際に使ってみて、とても楽しくさえなってきました。ただ、記述式の部分は、順番に画像を切り取って列挙されるだけですので、大きな負担減とはなりません。予めご承知おきください。

最後にお願いです。当センター提供の「インターネット利用に関する実態調査」を実施された場合は、是非 Excel データを HP 掲載アドレス宛にご提供ください。全県データとして積み上げ、皆様に還元したいと考えています。

SQS は、使わないと本当にもったいないと思います。

うそだと思ったら使ってみるでござる ――― 。

TOMODACHI サマー2015

ソフトバンク・リーダシップ・プログラムに参加して

高校生の地域貢献を促す

社会教育主事　三橋　俊文

ソフトバンクグループ株式会社が、2012 年より行っている「TOMODACHI ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」に、岩手のアダルトアライズ（高校生の社会参画プロジェクトをサポートする大人）の一員として 8 月 1 日から 9 日まで高校生と共に参加してきました。

◎プログラムの流れ

岩手、宮城、福島県の高校生 100 名が渡米（今年、岩手より 25 名参加）

7/21～8/ 9
カリフォルニア大学バークレー校で「Y-PLAN」を学び、「アクションプラン」を作成（今年、岩手から 19 プラン）

8/13～
「アクションプラン」を大人とブラッシュアップ

アダルトアライズ 2 名の他、岩手では 5 名の大人が高校生の「アクションプラン」の実行に向けサポートする

9/27
渡米した高校生、アダルトアライズ、大人が仙台に集まり進捗状況の「報告会」

9/28～
「アクションプラン」の再ブラッシュアップ・実行・振り返り

同プログラムは、岩手、宮城、福島県の被災地域の次代を担う高校生がソフトバンクグループ代表孫 正義氏の母校であるカリフォルニア大学バークレー校で「Y-PLAN」（市民参画や社会貢献を促す課題解決型教育手法）を学び、帰国後に地元で「アクションプラン」（地域貢献活動）を行う経験を積むプログラムです。「社会の役に立つような人になって欲しい」「どんな状況においても、行動を起こし、現状を変えられる人になって欲しい」という願いから始まりました。2021 年まで実施される予定で、今年岩手県からは 25 名が参加しました。今回参加した高校生は、4 月の選考会を経て県内各地から集まり、年代も高校 1 年生から 3 年生まで様々な想いをもって参加してきていました。

岩手から参加の高校生と関係者

高校生は我々アダルトアライズより一足早く 7 月 21 日から渡米しました。3 県混合の 4 チームに分かれ、1 週目には「若者によるまちづくりの重要性とリーダーシップ」をテーマに、現地の青少年リーダーが実施するプロジェクトを通して「健康的でいきいきとしたまち」について考えを深めました。また、「リーダーシップとは何か」という問いや「自分の強みは何か」といった、実際に社会変革を起こすためのスキルについても議論を行いました。

2 週目は「地域で行動を起こすためのスキルを身に付ける」をテーマに、実際にオークランド市に行ってまちの課題を調査し、チームごとに地域改善策を企画し、最後は市の実際の担当者に向けて提案するといった実践的な活動を行いました。全体での講義以外は、それぞれのチームでインストラクターが中心になって活動を進め、他県の高校生との仲もかなり深まっていました。

3 週目は、いよいよ「帰国後のアクションプランの作成」です。チーム、インストラクターと離れ、ここからは各県 2 人ずつのアダルトアライズの出番。各県ごとに分かれた生徒たちはこれまで学んできたことを基にしながら、もう一度地元について振り返り、何が課題か、その課題解決のために何が必要か、自分たちにできることは何かについて深く考えました。我々大人も生徒たちと向き合いそれぞれのアクションプラン作成に向け、毎晩遅くまでディスカッションしました。限られた時間の中でのアクションプランの作成、更にはそれをプレゼンするための資料作りと生徒たちは連日遅くまで本当に頑張っていました。最終的に岩手から 19 のプランが生み出されました。

プレゼンの発表時間は一人 4 分で、6 ブロックに分かれて予選を行い、各ブロックの代表 1 チームが最終プレゼンに進むという形で行われました。最終プレゼンに岩手から 3 人も選ばれ、100 人以上を前に堂々とプレゼンする姿に感動を覚えました。

最終プレゼンに残った高校生たち

今回の渡米で生徒たちは、「Y-PLAN」から多くのことを学び、同時に多くの仲間を得ました。この 3 週間はどの生徒にとってもかけがえのない時間だったと思います。しかし、渡米はあくまでスタートです。これからアクションプランの実行に向けサポートしながら、ひとり一人に寄り添っていきたいと思います。

市町村事業の紹介

葛巻町教育委員会

今回の市町村事業の紹介は、葛巻町教育委員会に寄稿いただきました。

葛巻町は、北緯40度、岩手県の東北部にあり、町の面積の86%を緑豊かな森林が占める標高1,000m級の山々に囲まれた高原風土が漂う、酪農と林業の町です。昭和30年7月15日に岩手郡葛巻町、江刈村、二戸郡田部村が合併し、今年7月に合併60周年を迎えました。

町では平成3年から当時の文部省の生涯学習モデル自治体の指定を受け、町民が年齢や性別に関係なく「いつでも、どこでも、だれでも」楽しく学び、豊かな人生を送ることができる環境づくりに努めてきました。

平成5年からは、葛巻町総合発展計画を受け「魅力的なくずまき高原楽農文化の町づくり」をテーマに、すべての町民が「自然、人間、スポーツ、文化」とのふれあいをはぐくみながら、輝かしい未来に向かって、楽しく仲間とともに進んで学習し続けることを誓い「生涯学習の町」を宣言し、今年で22年目になります。

地域と親子をつなぐ

ミニサッカー大会

町内各地区で構成される自治会には子ども達の健やかな成長を世話する「青少年健全育成会」が設けられ、それぞれ独自の活動を展開しています。

なかでも本年度で31回目を迎えた「青少年健全育成ミニサッカー大会」は、小学生が自治会単位でチームを構成して参加し、親子が最も関心を寄せている一大行事です。

夏の大会に向けて約一ヶ月前から地域の大人や中高生が指導者となり、校庭や広場で練習を始め、町中がサッカー練習の声で活気を帯びています。子ども達は、優勝旗が欲しくてたまらないのと、練習後や大会後の焼肉会が楽しみで熱心に取り組んでいます。何より世話する大人達が子ども達以上に楽しんでいます。当日は、子ども達は最後まで一生懸命にゴールを追いかけ、シュートをねらいました。

地域の中で多くの人達と関わることで、地域の絆を深め、また、スポーツをする楽しさを皆で共有することで、運動不足解消にも一役買っています。

子どもの未来を考える

町民の集い

子どもの未来を考える町民の集いは、教育関係の各種表彰、講演会、各種実践発表などを行い、生涯学習意識の高揚を図る機会として毎年開催しています。昨年度は、教育表彰、俳句コンテスト、読書表彰など子ども達の成果の表彰が行われました。

講演は、岩手県立生涯学習推進センターの佐藤公一所長を講師に迎え、「子どもの未来を考える家庭教育」と題して開催されました。

実践発表では、情操教育と多様な感性を養い子ども達の様々な可能性を見いだそうとすることを目的に、平成26年度から開始した保育園年長児によるバイオリン演奏が行われました。

また、ＰＴＡ実践発表では江刈小学校ＰＴＡ研修部会より同校のＰＴＡ活動が紹介されました。

今後も、青少年を取りまく環境について理解を深めるとともに、本町の教育力を高め、教育振興運動と青少年の健全育成のより一層の推進する場としていきたいと思います。

「岩手県立生涯学習推進センター情報」第85号 ／ 編集・発行 岩手県立生涯学習推進センター

〒025-0301 花巻市北湯口2-82-13 電話 0198-27-4555 FAX 0198-27-4564